



# 秋田内陸線の存続に向けて 上

秋田内陸縦貫鉄道を守る会

秋田内陸線は、平成元年の角館～鷹巣間の全線開通から今年で20年になります。その内陸線が今、存廃議論の渦中にある事をご承知のとおりです。

秋田内陸線の沿線地域にある上桧木内地区では、平成18年7月「秋田内陸縦貫鉄道を守る会」（会長 鈴木定平）を立ち上げ、存続活動を行っております。その中のひとつ、先ごろ実施した「ご近所さんに乗っていただく内陸線」と題したモデルツアー（“ゆさんこ号”“山野草観賞列車”“自転車列車”）は、市民の内陸線需要創出の契機になればという思いから計画したものです。3日間連続で実施したモデルツアーには仙北市内外から52名の方々が内陸線を利用して参加くださいました。今回参加された方々が発信源となって乗車促進や内陸線応援の輪が広がることを願っています。



沿線住民にとって内陸線は命です  
(写真集「秋田内陸縦貫鉄道」より)



内陸線を利用して“ゆさんこ号”に参加

仙北市を南北に貫く秋田内陸線が、沿線地域の日々の暮らしを支えている生命線であることは間違いありません。特に、少子高齢化が過疎化に拍車をかけている現状にあっては、健康な地域づくりを進めるうえでも内陸線は必要な存在であり、存続は社会保障の一環として捉えることができるのではないのでしょうか。

廃線の危機にある内陸線ですが、嬉しいことにここ数年の観光客の乗車数は増加傾向にあります。沿線住民の率先利用はもちろんの事ですが、観光資源となる要素を十分に備え持った秋田内陸線は、観光客の乗車促進に向けた取り組みを強化することにより鉄路は開けると思います。

私たち守る会は、内陸線を貴重な社会資本として位置づけ、様々な機会の中で存続に向けた活動を実践しながら存続の機運を盛り上げていきたいと考えております。



高校生が植樹祭参加者に内陸線への応援を呼びかけました  
(北秋田市大野台駅にて)

